

本校の地域連携・地域交流

富士吉田市立明見小学校

持続可能な連携活動を目指して ～明見小学校・明見中学校の小中連携～

1. 目的と経緯

明見小学校では、学校が隣接しているという立地もあり、以前から明見中学校との連携が盛んに行われてきた。また、明見小学校に通っている児童のほとんどが明見中学校に進学するということもあり、年間を通して様々な活動が計画的に行われている。

コロナ禍で活動が制限されたり、働き方改革で行事の精選が行われたりする中ではあるが、小中の連携は小学校から中学校への段差をなくすうえでも重要である。

今年度も持続可能な連携活動を目指し、取り組みを行ってきた。

2. 内容

①小中連絡会

学期1回、小中の校長・教頭・教務主任が集まり、連携活動の内容を確認したり、児童生徒の様子について情報交換したりしている。

②小中合同引き渡し訓練

令和4年度から小中合同で行っている活動である。今年度は、大規模地震を想定し、小中合同で引き渡し訓練を行った。今後は、富士山噴火を想定しての引き渡しと、大規模地震を想定しての引き渡しと交互に行い、いざという時のために備えていく予定である。



～富士山噴火を想定しての
引き渡し訓練（R6）～

③小中合同あいさつ運動

年間9回（始めの会・終わりの会を含む）小中合同でのあいさつ運動を行っている。小中の職員・児童・生徒が4箇所に分かれて、登校してくる児童生徒にあいさつハイタッチを行っている。年間数回は、PTAにも協力を依頼している。

今年度は、Pからの発案でマスコットキャラクターも登場し、あいさつ運動を盛り上げた。

中学生の姿を見て、小学生が学んでいる様子が見られ、とてもよい機会である。



～Pも参加したあいさつ運動の様子～

3. 成果と課題

上記以外にも部活動見学（ビデオ視聴）や小学生に中学校生活についてアンケートをとり、入学説明会で説明をする等、様々な取り組みが行われている。中学校生活への期待を抱かせたり、新しい環境への不安を取り除いたりするとてもよい機会となっている。働き方改革もあり、なかなか新規の活動を仕組んでいくのは難しい面もあるが、持続可能な形で小中連携を継続し、子供たちのよりよい成長のために取り組んでいければと思う。